

■会議結果報告書■

会議名称	「仮称）子ども貧困対策計画」の策定に係る札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会（第1回）
日時・会場	平成28年6月27日（月）15：00～16：30 子ども未来局大会議室
出席委員	9人出席
次回開催	未定

議題等	概要等
1. 事務局報告	○資料説明 事前送付資料の確認
2. 議題 (1) 「仮称）子ども貧困対策計画」の概要について (2) 実態調査の概要について (3) 支援者ヒアリングについて	○事務局説明（資料1：仮称）子ども貧困対策計画について、資料2：子供の貧困対策に関する大綱案について、資料3：計画策定スケジュール案、資料4：実態調査の概要について、資料5：支援者ヒアリングについて） ○質疑応答・意見交換 ・座談会はこういった形で実施するのか。また実施時期についても、アンケート調査結果を見てからの方がいいのではないかと。 事務局：座談会の実施結果を質問項目の参考にしたい。 部会長：対象はどうか。 事務局：奨学金を受給している高校生や大学生を想定している。 ・実態調査は、市全体の世帯や子どもの経済的困窮状態を把握する方法と、求められている支援やニーズなどを把握する方法があるが、どちらか。また、座談会は2回開催してもいいのではないかと。 事務局：市民アンケートは、広く子どものいる世帯に調査票を配付する。ひとり親世帯や就学援助を受給している世帯の子ども、生活保護受給中の子どもと保護者には対象者アンケートを実施予定。児童養護施設に入所や里親の子どもにも回答してもらいたい。座談会は1～2回程度の開催を予定。アンケート調査前後の実施を検討したい。 ・市民アンケートの調査数、集団はどれくらいを想定しているのか。 事務局：検討中であり、次回の部会までに示したい。 部会長：実態調査検討ワーキングの委員で予備的な議論を始めており、大体5,000～6,000人を想定している。年齢で割っても統計的分析に耐える数が一つの目安と考えている。 ・対象者アンケートについて、貧困を表に出すことを徹底的に拒否する保護者もいるので、調査方法には検討が必要。 部会長：自治体の施策に対する評価やこういった制度が望まれるかを盛り込む必要があると思う。貧困を少し緩和するような制度にも焦点が当たるようなものであるべき。 委員：貧困家庭でも欠損家庭でもない、ふたり親でも貧困に陥っている子どもがいる。ネグレクトやDVは貧困のくくりで考えるべきか。 部会長：家庭に対する支援と子どもに対する支援の両方を視野に入れなければならない。 ・調査票の概要を詰めて検討するに当たっては、実態調査検討ワーキングの委員で進めることでいいか。 (「異議なし」と発言する者あり)

	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市と北海道での連携や調整はあるのか。 事務局：北海道は既に計画策定しているが、実態調査は今年度行う。共通の設問項目と実施時期を同じように考えているよう。北海道の取りまとめも部会長が務めており、出来る限り協力しようと話している。 部会長：札幌市の独立した事業だが、他の自治体とも比較できるようにしたい。北海道とも議論の場を持ち始めている。北大でもプロジェクトがあるので、3機関で連携することになる。ただ、札幌市の行政施策に役立てるための調査とすることが重要。 ・無作為抽出の郵送だと、設問が多いと回収率が下がるが、学校を通せば回収率を上げられるかもしれないなど、色々な可能性がある。実態調査検討ワーキングで議論に盛り込むべきものがあれば出してほしい。 委員：定時制高校では、子どもが経済的に自立できるような繋がりのために、幾つかの企業と包括連携協定を結んでいる。それらも議論の材料にしてもらいたい。 部会長：高校生ではアルバイトの問題は大きいですが、実態がよくわからない。調査票も年齢段階によって分けないと、各段階で必要な支援は大きく異なると思う。高校生段階だと就労の問題は大きいと思う。 ・マスコミに取り上げられるボランティア団体が学校よりも実態を把握している場合があり、それらの団体からの声を聞く必要があると思う。 部会長：支援者ヒアリングの対象はどこか。 事務局：Kacotamやねっこぼっこのいえには実施予定。また、いずれかの子ども食堂にも訪問予定。 ・中学段階では、入学金等が免除のために本来は希望していない私立学校等を選択する子どもがいる。中学生がいる家庭にもアンケートしてもらいたい。 ・子どもの貧困対策は、親の貧困に結びつく。母子家庭の80%が働いており半分が非正規でワーキングプア状態だが、貧困家庭だと意識していない人がいる。札幌市では5年毎にひとり親家庭の自立促進計画のアンケートを実施しているが、それとの関係はどうか。 事務局：連携できる部分は連携していきたい。 ・教育委員会にSSWがいるが、家庭の実態を見ているのではないか。 ・子どもの貧困の概念やイメージはどうか。 事務局：国では生活保護受給者や社会的養護の子ども、ひとり親としている。 委員：当座の生活を見ると、就労している若者より子どものいる生活保護受給世帯の方が恵まれている例もある。今回の取組で、どういう実態を貧困としてサポートするのかが見えてくると思う。 部会長：子どもが経済的状況に左右されずに大人になるための施策などを考える場だと考えないといけないと思う。 ・札幌市では子どもの権利についても熱心に取組んでいるので、その視点も大事にした設問項目があると良い。
(4) 支援の現状について	○村尾委員より報告
3. その他	○事務局からの連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は未定なので、改めてご都合などを確認させていただきご案内したく、協力をお願いしたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>